

— 追 悼 —

巨星・松本文夫先生を偲んで

(社)日本環境感染学会の名誉会員であります松本文夫先生は、本年2017年(平成29年)11月6日、かねて療養中のところ、肝細胞癌により享年85歳で逝去されました。

松本先生は、本学会の設立時から評議員であり理事であります。本学会の第一回総会の上田泰教授を会長(理事長)として東京慈恵会医科大学(慈恵医大)の中央講堂で開催されました。その際の事務局長であり、発足に際して本当に汗をかかれた人であります。理事として1986年の発足から98年の12年間つとめ、この間1996年2月から98年2月まで第3代目の理事長をつとめました。1994年第9回日本環境感染学会総会を大成功に終わらせ、今日の発展の礎を築きました。松本文夫先生は県立不動岡高等学校から慈恵医大に進学し優秀な成績で1958年(昭和33年)に卒業しました。



慈恵医大附属青戸病院(現 葛飾医療センター)で1年間インターン終了後、1959年第26回医師国家試験合格(医籍登録番号196495号)。

1959年5月創設まもない慈恵医大上田内科教室(教授 上田 泰)に入局し、1963年有給助手、1970年講師に昇格、上田教授との出会いがその後の人生において大きな影響を受けることとなった。上田内科教室の腎臓と感染症の2本の研究テーマの、一方の柱の感染症と化学療法の領域の旗頭として活躍した。1976年慈恵医大から神奈川県衛生学院附属汐見台病院(汐見台病院)に副院長として派遣され、奉職された23年間、診療、看護学生の教育実習および神奈川県下の看護師養成、そして学会活動、研究など多忙な日々を過ごした。

病院感染・院内感染を研究テーマとして、医師はもちろん、臨床検査技師、薬剤師、看護師などにも多くの発表の機会を与えた。第9回日本環境感染学会総会は、市中病院(汐見台病院)を足場としての活動であり、多くの注目を集めた。とくに本学会の歴史のなかでも初めて市中病院の院長が総会会長をつとめた事は特筆される。地域医師会員との合同症例検討会を定期的に開催するなど地域医療の発展にも心を注視した。

略 歴

【学歴・職歴】

1958年（昭和33年） 東京慈恵会医科大学卒業
1959年 4月 東京慈恵会医科大学 上田内科教室入局
1970年 3月 〃 講師
1973年 2月 国立松本病院 出張
1973年 10月 〃 帰室
1976年 5月 上田内科から第二内科に名称変更
1976年 7月 神奈川県衛生看護専門学校附属汐見台病院（副院長）に派遣（非常勤講師）
1979年 4月 東京慈恵会医科大学 客員教授委嘱
1988年 4月 神奈川県衛生看護専門学校附属汐見台病院 院長
1999年（平成11年）3月 〃 退任
1999年（平成11年）4月 〃 名誉院長
2003年 6月 神奈川県社会保険診療報酬支払基金 審査委員長

【受賞歴】

1994年（平成6年）6月 神奈川県保健衛生表彰
1997年 10月 厚生労働大臣表彰（支払基金関係功労者として）

【主催された主な学術集会】

第35回日本化学療法学会東日本支部総会（1988年）
第9回日本環境感染学会総会（1994年）
第43回日本化学療法学会総会（1995年）

松本先生の葬儀は11月11日（通夜）、12日（本葬）埼玉県・大宮ホールで行われた。学会を代表して（社）日本環境感染学会 理事長 賀来満夫名で献花された。先生の人となりを偲んで多くの参列者のもとで行われ、その中には本学会の元理事長 小林寛伊先生、前理事長 小西敏郎先生の顔もみられた。本学会の発展に尽くした先生の功績を偲ばせた。

（社）日本環境感染学会 名誉会員 柴 孝也
（東京慈恵会医科大学 客員教授）